

FOR YOU

東京電機大学中学・高等学校同窓会

VOLUME
40
朋友

発行 2025 (令和7) 年3月15日
発行責任者 伊奈 敬
発行所 東京電機大学中学・高等学校同窓会
http://www.tdu-chukodoso.com/
〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番
[東京電機大学校友会]
TEL 03-5284-5140



会長挨拶

大いにクラス会を開催しよう!! 朋友40号おめでとう

東京電機大学中学・高等学校同窓会は母校と同窓生の応援団です!

東京電機大学中学・高等学校同窓会 会長

伊奈 敬

卒業生の皆様には、平素より同窓会活動には多大なご協力ならびに多大なご理解をいただき、厚く御礼申し上げます。

この頃、同窓会ではうれしいことにクラス会開催が多くなってきました。クラス会の様子は、同窓会ホームページに掲載して同窓生にお伝えしていますが、「同窓会の活性化は、クラス会開催から」と役員、幹事一同思っています。また、コロナ禍前には対面で実施していた「二十歳の祝い」も昨年度、4年ぶりに母校の小金井キャンパスで開催することができ、多くの卒業生が来校して懐かしいクラスメイトや先生方との思い出話に花が咲いていました。

同窓会では令和7(2025)年も、「二十歳の祝い」を5月31日(土)に開催する計画を進めています。その時にはぜひ、母校へ遊びに来てください。また、同窓会で

は新しい企画として、「30歳の集い」を令和7年11月の予定で計画しています。詳細が決まり次第、30歳を迎えた方々にご連絡いたしますので多くの皆さんの参加をお待ちしています。

今回、同窓会誌『朋友』は第40号となります。先輩方の思いが詰まった『朋友』を40号まで無事に発刊できたことに、幹事一同、感無量であります。『朋友』は初号から最新号までを同窓会ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

同窓会では在学会員向けの事業として、体育祭や文化祭の奨励賞を出して活動を応援してきました。令和5年度からは、中学校の探求研究についても奨励賞をお出しています。これからも同窓会では、在学生在が頑張っている姿を応援していきたいと思えます。



名誉会長 (東京電機大学中学校・高等学校 校長) 挨拶

学校は「恩送り」の場

名誉会長 (東京電機大学中学校・高等学校 校長)

平川 吉治

同窓生の皆様には、日頃より本校の教育活動にご支援ご協力をたまわり、誠にありがとうございます。皆様にはこれまでも折に触れて在校生の活動の成果に対する褒賞をいただいております。昨年度からはそれらに加えて、新たなカリキュラム「探究」での優れた研究に対して「最優秀論文賞」を授与していただきました。これには在校生たちも大いに励みになったことと感じています。同窓生の皆様にはこの場をお借りしてあらためて感謝申し上げます。

また令和5年6月には、長く感染症の影響で自粛していた「二十歳の祝い」を小金井キャンパスで開催することができました。これもたいへんうれしいニュース

であり、多くの卒業生たちが在学中にお世話になった先生方と歓談している様子を見ると、やはり彼ら彼女たちも母校を訪れる機会を待ち望んでいたのだと感じた次第です。

誰かから受けた恩を、別の誰かに送ること。これを「恩送り」というそうです。学校とは、まさに恩送りの場なのではないでしょうか。上の世代から受け取ったバトンを下の世代に手渡していく。そのようにしてそれぞれの学校は独自の文化を形作っているように思います。そうした本校の文化をこれからも守り続けていけますよう、同窓生の皆様には今後ともこれまでと変わらぬご支援ご協力をどうかお願い申し上げます。

小石川から小金井へ

英語科教諭 黒沼 康広

1986年4月にこの学校に奉職し、あと1年少々で40年が経過する。私と同期で高等学校に配属された教員は4名とその当時としては多かったのだが、一人辞め、一人抜け……と、結局7年目で一人となってしまい、今日に至っている。

当時学校は小石川にあり、JR飯田橋駅と水道橋駅、地下鉄丸ノ内線の後楽園駅のほぼ中間に位置していた。ちなみに、私が就職する際に家で地図を見ていたら、高等学校も神田と記載されており、それ以前は神田にあったようだ。小石川当時、コースは大きく普通科と工業科に分かれており、工業科はさらに電気科・電子科・機械科に分かれていた。東京電機大学へ内部推薦で進学する生徒がほとんどで、「進学できる工業科」をうたっていたような記憶がある。

就職当時はバブル期に当たり、一般企業に就職した大学の同期は羽振りがよく、「学校は一般企業とは異なる」ということで給与が一気には上がらなかったという苦い思い出はあるが、先輩や同期、後輩の教員とよく午前様になるまで飲みに行っていたので、その後の不景気な時期と比べると良かったほうなのかもしれない。

「電機大学」という名の通り(?)「電算機室」という部署があり、成績はマークシート用の紙に書き込み、コンピュータ処理されて成績表が印刷されてくるという、当時としては画期的なシステムがあり、全国各地の学校からこの施設の見学によく来ていたように思う。

生徒の質は今とは全く異なるが、社会を生き抜いていくバイタリティは当時のほうがあったように思われる。少々危なっかしい生徒もかなりいたが、高2で行った京都奈良への修学旅行の自主研修で一緒に回って案内してくれるような面倒見の良い(?)生徒もいて、今風に言えば多様性に富んだ生徒たちだったように思う。

私が就職した頃から生徒の質がやや落ち着いてきたが、やはり大きな転機となったのは、1992年の小金井への校舎移転と1996年の中学校設置、1999年の共学化ではないだろうか。小金井へ移転する際は、事前に会議で検討を重ね、緑の多い郊外へ移転すべきか、立地条件の良い(東西南北どこからでも生徒が応募してくる)都心にとどまるべきか、まだ新米教師である我々にも考えを求められた覚えがある。「都心の天地……」ではなくなってしまったので、校歌も変更となった。現在のものとも異なり、今となっては知る人ぞ知るユニークな曲で、ラジオ番組でも取り上げられたものだった。

移転前、小金井の敷地にはグラウンドと大学生の寮が

あり、特に土日になると部活動で毎週通っていたが、校舎建設が始まるとグラウンドが使用できなくなってしまい、西浦和駅近くにある浦和学院の土地をグラウンド用に整備してもらい、結構長い期間通ったのも今となってはいい思い出だ。その後小金井の敷地の使用許可が下り、4月の大会に向けて雨の日に校舎内で練習していたら、新校舎開校前にもかかわらず三角教室の扉のガラス戸を割ってしまうなどということもあった。今となっては信じられないことをしていたものだと思う。

1996年の中学校設置については、1期生が2クラス、2期生が3クラス(定員をはるかに超えて入学手続き者が出てしまったため3クラスだった)と、少人数から始まった。就職の際、他の中学校の口を断っていた私が、なんと2期生の学級担任(当初は学年主任の予定だった)を任せられることになった。1期生というパイオニアがいたのでかなり楽ではあったが、高等学校の担任から中学校の担任へと変わったことにより戸惑いながら日々過ごしていたように思う。この時、2期生を6年間教えていたこともあり、その間に行われた1999年の共学化についてはあまり初期の印象が残っていない。その後はすべて高等学校の担任だったためか、中学生に接することも少なかったが、役職に就いてからは中学生がほぼ専門となっている。中学校設置の頃と比べると、中学生の気質もかなり様変わりしているが、何度かあった変革期の都度、うまく対応してきている優秀な本校の先生方は今後もうまく立ち回り、ますます学校を発展させてくれることを期待して筆をおこうと思う。



移転前の校舎



幻の? 小金井校舎デザイン



航空写真—東京ドームと電高

40周年
記念

同窓会誌発刊当時を振り返って

同窓会誌『朋友』の思い出

中学・高等学校同窓会 参与 石崎 泰司



今年度版の『朋友』が40号を迎えるにあたり、創刊号から携わってきた私に、編集担当者からその当時の思い出やエピソードの原稿依頼があり、当時を思い出し、まとめてみました。

1984(昭和59)年10月に「高等学校同窓会創立25周年」を迎えるため記念事業委員会を発足し、第1回目の会合がもたれ、その日を起点に記念事業の冊子を発行する編集委員会を発足しました。編集委員は、柴山茂雄氏・須賀廣光氏・石崎泰司の3人が担当となり、校友会会議室(当時は神田錦町本館玄関前の6号館1階が校友会室)を使用して、延べ15回程の編集会議(時間にして約150時間)をかけて、何とか記念誌の発行に間に合わせる事ができました。内容については、都度、同窓会幹事会において、進捗状況を説明し、冊子の名称、今後同窓会誌として継続発行する目的を審議し、冊子の名称を歴代の幹事や当時の幹事から募集し、幾多の案から第2代会長の鷺見篤氏提案の「朋友」に決定しました。

「朋友」は、「仲の良い友達、友人という意味を持ち、英語のFor You…」 「会員皆様のための」という意味を持たせています。この「朋友」の名称を、当時の校長であった吉田宇一先生に直筆をお願いして、表紙に掲載し、2019年3月号まで継承されていました。

目的は、中学校・高等学校の同窓生の皆様へ、卒業後の同窓会からの連絡、学校からの連絡とあわせ、東京電機大学校友会との関連説明を含めた、唯一の同窓会誌として毎年発行されていくこととなりました。

また、『朋友』創刊号発行の5年前、1979(昭和54)年6月に「東京電機大学高等学校創立40周年」の式典

があり、あわせて記念誌『回想』の発行を広報部会の担当として同窓会から柴山茂雄氏と私石崎泰司の2名が編集担当となりました。記念誌の内容、原稿依頼、編集作業そして製本依頼まで担当するには、全く不慣れだったため、当時私の高校時代の友人(申橋幸保氏)が、印刷業から製本までの会社を設立したことを思い出し、『回想』の内容を説明し、プロとして編集に協力してもらい、何とか製本納品の予定日に間に合わせる事ができました。その後申橋氏には、同窓会幹事になってもらい、『朋友』の編集担当を含め、活躍いただきました。

『朋友』は、予算の関係から9号の冊子形式以降、2年間タブロイド新聞形式としました。また、冊子形式を1年、その後2年はタブロイド新聞形式を繰り返すことで、発行を継続することができました。2001年3月発行の16号からは、カラー印刷を採用し、さらに2020年3月発行の35号から現在の冊子方式となり、今日まで継続して発行されています。

また、『朋友』の内容も、表に記載したように、高等学校自体の変化に伴い(例えば、高等学校の授業内容の変更、中学校の併設、男女共学や校舎移転等)、卒業生も変わり、幾多の変化に対応し、「朋友」の意味を踏襲しながら、編集担当者の方々の努力によって変化させ、今日に至っています。

これからも、東京電機大学中学・高等学校の卒業生(会員)のための「朋友の精神」(卒業生の皆さんは、生涯会員です。会員のための…)を継続されての発行を願っています。



石崎参与から『回想』、『朋友』の1号から39号までの冊子を寄贈いただきました

表 東京電機大学中学・高等学校と同窓会の歩み

1956(昭和31)年 2月	東京電機大学高等学校と改称
1959(昭和34)年 4月	東京電機大学高等学校同窓会設立総会開催
1965(昭和40)年 4月	高等学校 神田錦町から文京区後楽に移転し、授業開始
1979(昭和54)年 6月	高等学校40周年式典 高等学校同窓会20周年記念総会
1985(昭和60)年 10月	同窓会誌 同窓会設立25周年記念誌『朋友』1号の発行
1989(平成元)年 11月	高等学校創立50周年式典開催
1990(平成2)年 11月	同窓会設立30周年記念講演会(矢追純一氏)
1992(平成4)年 4月	高等学校現在の小金井キャンパスへ移転授業開始
1992(平成4)年 9月	「電高祭」から「武蔵野祭」へ改称
1992(平成4)年 10月	高等学校「電気科・電子科・機械科」廃止
1995(平成7)年 7月	同窓会35周年記念講演会(中畑清氏)
1996(平成8)年 4月	中学校併設、東京電機大学中学校・高等学校となる
1999(平成11)年 4月	男女共学となる
1999(平成11)年 6月	東京電機大学高等学校創立60周年記念式典 同窓会40周年記念総会開催



学校だより 中学校

仲間と心躍る体験を共にすることで、未知の世界に飛び込む勇気や意欲が湧いてきます！



中1 林間学校 (2024/7/23 ~ 25)

富士山 5 合目で全員集合！ 登山の達成感はひとしおでした。



武蔵野祭① (2024/9/21 ~ 22)

武蔵野祭での研究発表。緊張しながら頑張りました。



武蔵野祭② (2024/9/21 ~ 22)

中2は全員で合唱をしました。学年がひとつになった瞬間です。



武蔵野祭③ (2024/9/21 ~ 22)

中3による演劇・グッジョブ！ 様々なドラマがありました。



見学会① (2024/10/18)

中1・野川散策では自然や歴史を満喫しました。



見学会② (2024/10/18)

中2・多摩六都科学館。興味津々の目の輝きはさすが TDU 生！



見学会③ (2024/10/18)

中3・TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG)
海外の雰囲気を感じながら英語を体験しました。



体育祭 (2024/11/9)

中3はソーラン節を披露。
やっぱり最上級生、抜群のチームワークでした！



学校だより
高等学校

生徒たちは学校行事を通して自己理解を深めます。



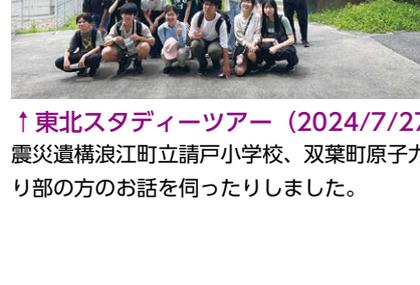
体育祭 (2024/6/8) 体育祭執行部が中心となり開催。生徒全員が楽しめる工夫がなされています。
(左) 高3女子による「扇の舞」 (中央) 毎年白熱する「騎馬戦」 (右) 練習の成果を出せるか「大縄跳び」



武蔵野祭 (2024/9/21・22) 生徒の日頃の成果発表の場です。保護者や東京電機大学の学生の方々にもご協力いただき盛り上げます。
(左) 「PTA 目線の入学相談」 盛況でした。(中央) 東京電機大学理工学部「フォーミュラ SAE プロジェクト」 (右) 「茶道愛好会」によるお点前



←第45回文化講演会 (2024/7/16)
今年は、「バッタを倒しにアフリカへ」の著者、前野ウルド浩太郎先生をお招きして「『好き』で飯食う、バッタの博士」という演題でご講演いただきました。



↑東北スタディーツアー (2024/7/27・28)
震災遺構浪江町立戸戸小学校、双葉町原子力災害伝承館などを訪問したり、相馬市の震災語り部の方のお話を伺ったりしました。

↓つくばサイエンスツアー (2024/7/18)
高1、2生全員で、研究学園駅周辺の JAXA 筑波宇宙センターや産業技術総合研究所など 14 の施設から、希望する施設を各自で 2 つ 選び見学しました。



**カンボジアボランティア
ツアー→
(2024/7/30 ~ 8/5)**

シェムリアップから車で1時間ほどの村にある小学校で日本語・英語を教えるボランティアなどに取り組みました。





クラブだより
高校テニス部

幸治 茂弘《高校テニス部 顧問》

高校テニス部は現在、男子17名、女子3名で週4日活動しています。テニスはボールやラケットを使用するため、安全を最優先としながら元気に練習しています。コートは2面使用できる曜日と、1面しか使用できない曜日とがあるので、部長を中心にメニューや参加者を決めています。日々の練習以外に、1年生のうちは用具の準備・片付け、コート整備、書類の作成など部活動に欠かせない仕事について学んでもらい、2年生では部を引っ張る責任の重要性を学んでもらおうと考えています。テニスの技術については先輩が後輩に教えてあげることが多く、顧問やOBが指導できるときにはその様子を見守りつつ適時サポートをしています。高体連主催の大会と私学連盟主催の大会が主な公式戦ですが、一番の目標は、3年生の引退試合でもある5月のインターハイ団体戦予選で1つでも多く勝ち上がることです。

テニスは個人競技であり団体競技ではないので、サッカーや野球ほどのチームワークを求められることはあまりなく、一体感や連帯感を育むことが難しい面もありま

す。しかしテニスでは、シングルならば最低2名、ダブルスならば最低4名が集まらないと試合も練習もできません。テニスは生涯スポーツと呼ばれ、部員たちには卒業後も長きにわたりテニスを楽しんでほしいと考えていますが、そのために欠かせないのは、相手に「またお願いします」と言ってもらえるような良い礼儀・マナーです。顧問の私も社会人サークルで練習や試合をしていますが、皆さん礼儀やマナーがしっかりされています。もちろんこのことは社会においても重要な資質ですので、部員たちには、テニスの技術だけでなく、社会性も部活動を通じて涵養して行ってほしいと思っています。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



クラブだより
学生広報アンバサダー 「TDUのいいね」を再発見・再配信

池田 巧《入試広報室》

本校では、『TDUのいいね』再発見・再配信』をテーマに、学生が主体となり学校の魅力を発信する「学生広報アンバサダー」制度を導入しています。日頃の学校生活や行事で見つけた「TDUのいいね」を再発見し、それを生徒独自の視点や言葉で発信するものです。

2023年から開始したこの取り組みも2年目を迎え、Instagramでは2025年1月時点で延べ345投稿、フォロワー数は1335人を超えました。ひとえに皆様の温かいご支援・ご協力のおかげと感じております、誠にありがとうございます。

また学校説明会でも、「学校の温かい雰囲気が伝わってくる」「この投稿を見て入学したい気持ちがグッと高まりました」など、うれしいお言葉の数々をいただいております。保護者や本校卒業生からも、卒業後に本校の様子や当時教わった先生方の活躍を見る機会ができて、「投稿を楽しみにしています」といったメッセージをいただくなど、この投稿によって本校を支えてくださる様々な方との接点が生まれたことを学生広報一同、とてもうれしく感じています。

改めて、この学生広報の活動を通じて、在校生、卒業

生、保護者、受験生、そして何より本学に関わる多くの方々をつなぐ「共感の場」を今後も大切にしていまいります。さらに、この活動を学生広報にとっても貴重な成長の場となるよう、アンバサダーとして自らテーマを企画し、仲間と協力しながら情報を再配信することで、責任感、発信力、そしてコミュニケーション能力を高めることを目指しています。

『TDUのいいね』再発見・再配信』という言葉には、TDUに関わるすべての人々が「いいね」と共感できる価値を共有し、それを未来へつないでいくという願いが込められています。卒業生にとっては母校と再びつながる機会であり、本学関係者にとってはTDUブランドの価値を高めるパートナーシップの場となることを願っています。



東京電機大学
 中学校・高等学校
 公式 Instagram



山崎 武光 (数学科)

地方出身の私は、高校卒業と同時に東京の大学に進学、その後、ご縁があって1983年に東京電機大学高等学校に奉職して早41年が過ぎました。他の学校からのお誘いもあったのですがお断りし、現在に至っております。当時の小石川校舎の上空写真には立派なグラウンドが写っており、都心でもすごい学校だなという印象でした。ところが、そのグラウンドは文京区の施設であって、後に写真はグレーに塗られることになったのです。もちろん体育館はありましたが、テニスコート2面と屋上にちょっとした運動のできる設備だけでした。男子校で学ランの彼らにとっては狭すぎたと、今でも思っています。

1年目は清里教育キャンピングをはじめ、静岡県の大田湾で行われた水泳教室の引率、修学旅行の引率、冬にはスケート教室での指導と、宿泊行事のほとんどに行っていたものです。毎年スケート教室はクリスマスと重なり、家には妻と子どものみ残しての出張のため……ご想像にお任せします。

担任としても長く、卒業生が時々訪ねてくれることが私学で教師をしていてよかったと思えることのひとつです。写真①は武蔵野祭のときに訪ねてきた何年かぶりに会う卒業生です。

小金井への移転、中学併設、男女共学を経て現在に至ります。高校担任と学年主任が長かったのですが、突如として50の手習い(?)で何もかもが初めての中学担任かつ学年主任で、学年団の先生たちに救われたことをよく覚えています。感謝しかありません。

部活動も多岐にわたり、軟式テニス部(現ソフトテニス部)から始まり、バドミントン部、ゴルフ部と携わり、今では15年以上も中学女子バレー部の顧問をさせていただいております。3~4年前の中学女子バレー部は試合に出られないほどの人数で細々と活動を行っていましたが、昨年からは部員が増えて他校との練習試合や公式戦にも積極的に参加しています。新人大会ではブロック準決勝まで進んだものの惜敗したゲームもありました。普段の練習や合宿など、様々な面で助け合ってここまで来ることができたのも、高校女子バレー部顧問の深見先生のおかげだと思っています。今年度からは新任の濱口先生にもお手伝いをいただき、3人で盛り上げ中です。年が年ですからジャンプ力も体の動きも衰えてきていますが、私は濱口先生から若さ溢れるパワーをもらいながら、もう少しだけ3人でともに練習したいという気持ちと年を考えろという両者の葛藤の中、結果としてはバレーが好きなのでしょう、毎回の部活動に参加をしています。

生活スタイルも変化し、板橋区から山と緑に囲まれた

八王子市に引っ越して30年が経ちました。車は“ハイソカー”からワンボックスカーに、さらに小型、中型、大型という3種のバイクでの生活スタイルが変わってきました。車で北海道や京都(自転車を載せて)まで行ったりもしました。コロナ禍以前はツーリング用の大型バイクに乗ってソロまたはタンDEMでよく出かけました。遠くは石川県の輪島から千里浜海岸を、妻を後ろに乗せて走ってきました。今は、退職後にどこを走ろうかと考えています。

写真④は東京ディズニーシー20周年の年に家族みんなで行って(といっても息子と婿殿は行かなかった(笑))撮ったものです。2024年9月には長男の結婚式があり、子どもも無事に独り立ちをしました。

何はともあれ、まずは健康に留意し怪我のないように部活動や普段の生活をしていかなければ、大好きなバイクにも乗れなくなり、一気に年を取りそうな気がしますので、今一番気を遣っているところです。

これまで長い間仕事ができただけ、みなさまのお力添えのおかげだと思っています。本当にありがとうございます。私もそろそろ本当の意味での引退の年齢ですが、できる限りまでは続けていこうと思っている今日この頃です。



①武蔵野祭(2024年)



②女子バレー部合宿(2024年)



③千里浜海岸にて



④東京ディズニーシーで家族とともに

私がこの学校にきた理由^{わけ}

北園 桂子

平成6(1994)年、文部省(現在の文部科学省)が、家庭科を男子生徒にも学ばせる男女共修を打ち出しました。それまでは家庭科は女子だけが学んでいましたが、それ以降は男子も学ばないと高等学校を卒業できなくなってしまいました。

当時の東京電機大学高等学校は男子校で、家庭科をやっていませんでした。そこで講師探しが始まったようですが、その条件は、①あまり若すぎない、②でもあまり年寄りすぎないことというので、要するに40歳前後の教員を募集していたそうです。

私が卒業した大学は栄養学を学べる女子大で、私にも「誰か(家庭科講師をできる人は)いないか?」と連絡が入り、「自宅が小平で距離も近いし、結婚も出産もしているから男子高校生相手でも大丈夫でしょう」と大学の先生に言われ、とりあえずその採用面接を受けてみました。そうしたらなんと即採用! 当時の私は、そんな簡単に決まるものとは思ってもみなかったのでかなりビックリしました。

しかし、私の本当のビックリは入職後に待っていました。まず校内に女性の先生が一人もいない! 女子トイレは1階の職員専用しかない! 先生方は科目ごとの部屋にいて、私に与えられたのは独房のような窓のない3畳ほどの部屋! 当時はそんな職場環境でしたので、基本的に私は授業をやったらとっとと帰宅していました。

教科書は「生活一般」という4単位ものを渡され、そのうちの1時間(1単位)授業をやってくれば良いと言われたものの、私には4時間分をどう1時間でやればよいのか分からず、他校にどうしているのか聞きに行ったりもしました。他校の先生からは「それはありえない!」と言われましたが、それでも授業はやらねばならず、では自分が大学で学んだ栄養学をしっかりやろうと心に決め、授業プランを考え始めました。まず5大栄養素から始め、どの栄養素が摂れないと身体に不調が出るのかを教え、次に家計のお金の使い方、サラ金の金利、これからの日本の課題など、私の独断と偏見で授業を進めることにしました(あと残りの3時間については、夏休みに各クラス1日ずつ日付をずらして清里教育キャンプを2泊3日で行い、寮やバンガローに泊まって、山に登ったり、調理実習をしたりして1時間分とカウントし、あとの2時間はコンピューター授業を行うことになっていました)。

なんとか授業が軌道に乗ってきたのも束の間、今度は突然家庭科の授業を2時間やってくれという話が私のもとに舞い込んできました。私としては今さら2時間もい

らない……とと思っていましたが、今度は新たに2時間の授業プランを考えることに頭を悩ませることとなりました。教科書には2時間ものの「家庭基礎」というものを採用し、その中で今までやっていた栄養や経済、これからの老後についての内容に加え、新たにできた時間を使って被服や育児、住居なども教えるようになり、少しずつ教授内容も充実したものになっていきました。

この間、東京電機大学高等学校はまず中学男子を受け入れ、次に高校女子を入れ、このときに中学女子を受け入れて、現在の男女共学の中学・高等学校となりました。私自身も平成10年から専任教諭となり、多くの生徒たちの担任をさせてもらいました。生徒たちと一緒に多くの時間を過ごし、いろいろな場所へ行き、大変だけれど楽しい経験をたくさんさせていただきました。今はただ時間講師として授業のみを担当していますが、専任教諭の時とのさまざまな違い(学校・生徒に関する情報の量や給与など)に驚き、これまでなんと恵まれた環境で働いていたのかと過去をふり返りつつ、感謝するようになりました。

これまで関係する皆様には大変お世話になり、心よりお礼申し上げます。先生方のみならず、生徒や保護者、関係する多くの方々からさまざまなことを学ばせていただきました。この東京電機大学中学・高等学校で培った経験を、今後もなんらかの形で活かしていきたいと思っています。入職31年間、本当にありがとうございました。



バドミントン部(筆者中央)



雲洞庵にて(筆者右)



頑張る先輩

TDUで見つけたなりたい自分

平野 安彦

皆さんこんにちは。平野安彦（ひらのやすひこ）と申します。私は2005年に中学校に入学し、高校までの6年間でTDUで過ごしました。

この学校を知ったきっかけは、父が高校・大学の卒業生であり、その縁から志望校の一つとなったことです。実際に入学してみると、学びと経験の豊かさが非常に印象的でした。

高校進学時には、父が卒業生であることが学校に知られたことでPTA役員になり、最終的には会長を務めることとなり、若干の気まずさも感じましたが、全体的に楽しく充実した学校生活を送ることができました。

私は中学・高校を通じてコンピュータ部に所属し、武蔵野祭で展示するゲーム制作活動に力を注ぎました。特に高校2年時には副部長として、後輩の指導や全体の活動を支える役割を担いました。中学生と高校生と一緒に活動する環境だったので、世代を超えた交流ができたことも良い経験でした。

在学中で最も印象深かったのは、高校1年の時に参加したシアトルでのホームステイです。初めての海外で、現地の文化や生活に触れるすべてが新鮮で、スターバックスの世界1号店を訪れたことも特別な思い出となっています。

私はもともと理系に興味があり、学費の負担を考慮して国立大学を目指していました。中高それぞれの担任の先生が数学の先生だったことも、理系への進路を強く意識するきっかけとなりました。その後、電気通信大学に進学し、大学でもサークル活動としてゲーム制作に励みました。特に学園祭に向けた制作プロジェクトでは、中高時代の経験を活かしつつ、チームでの開発に取り組みました。学部3年次には数値シミュレーションの講義に



魅了され、学部4年次からは「マイクロマグネティックシミュレーション」の研究に携わりました。修士課程に進学後も研究を継続し、国内の学会や研究の発表や議論を通じて知見を深めました。

学生時代の活動は主にゲーム制作でしたが、将来的にはソフトウェア開発全般に関わりたくと漠然と考えていました。2018年3月に修士課程を修了し、セントラルエンジニアリング株式会社に入社。現在はソフトウェア設計の業務に従事しています。

中学・高校時代の経験は、私の成長や現在のキャリアに大きな影響を与えています。この学校で得た知識や人とのつながりが、今の自分を形作っていると感じています。この場を借りて、当時お世話になった皆様に感謝を申し上げます。



高校時代 日帰り弾丸富士山登山（著者中央）



大学時代 “聖地巡礼” 大洗

記念式典 二十歳の祝い

5月25日の同窓会総会后、小金井キャンパスで二十歳の祝い記念式典を開催しました。コロナ禍のため開催できず、対象の方々には記念品をお送りしていましたが、4年ぶりに一堂に会しての開催となりました。

小ホールで記念式典を行い、平川校長先生、在学当時の学年主任の米山先生はじめ、多くの来賓から二十歳を迎えた卒業生にお祝いの言葉が贈られました。その後、カフェテリアに会場を移して懇親会を行いました。懇親会では、恩師や同級生の近況報告や在学当時の思い出話などで、歓談の輪がカフェテリアいっばいに広がり、話題が尽きない様子でした。

同窓会では今後、30歳を迎える方を対象にした30歳の集いも計画しています。この二十歳の祝いや30歳の集いをクラス会開催の契機にして、大いにクラス会を開催してください。「同窓会の活性はクラス会から」という方針のもと、同窓会では開催援助金をお出ししています。こちらもぜひ活用してください。



出席者の声 二十歳の祝いに参加して

塩澤 悠希 (東京電機大学工学部情報通信工学科)



2024年5月25日(土)、4年ぶりに「二十歳の祝い」合同クラス会が開催され、2022年3月に卒業した仲間たちと再び集うことができました。久しぶりに再会した友人たちの顔を見て、卒業以来の月日を懐かしく感じました。最初は少し緊張しま

しましたが、話し始めると自然と当時の思い出がよみがえり、あっという間に学生時代の雰囲気に戻ることができました。

これまで「二十歳の祝い」は東京電機大学東京千住キャンパスで行われていましたが、今回は母校である東京電機大学中学校・高等学校が会場となりました。そのため、懐かしい校舎や当時の雰囲気を思い出す良いきっ

かけとなりました。同期と近況を語り合い、それぞれが進む異なる道を実感するとともに、その多彩な挑戦や歩みに大いに刺激を受けました。

さらに、恩師の先生方にも直接近況を報告する機会をいただきました。先生方との会話の中で、高校と大学の連携に話題が広がり、私が大学で行っている取り組みに高校生が参加できる可能性についても相談させていただきました。その結果、簡単なイベントを企画・開催することができ、今後も連携をさらに深めていきたいと考えています。

この「二十歳の祝い」は、懐かしい記憶を呼び起こすだけでなく、新たなつながりや挑戦のきっかけとなる貴重な場でもあり、とても充実した一日となりました。このような素晴らしい機会を提供してくださった先生方や同窓会関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。この経験を糧に、これからも一歩ずつ前進していきたいと思っています。

武蔵野祭 だんわ室

9月21日、22日に武蔵野祭が開催され、同窓会では恒例の「だんわ室」をクラブ活動後援会と合同で開催しました。当日は、多くの卒業生の皆様にお越しいただき、先生方や同級生同士での思い出話や、それぞれの近況報告などで大変盛況でした。

今回新たな試みとして、現役大学生である若い卒業生の協力を得て、大学生活について「生の声」を聞く相談コーナーを設けました。当初は、進学に向けて現役電高生が質問に来られることを想定していましたが、保護者の方が多く立ち寄り、進学に備えての取り組み方などを熱心に質問されている姿もあり、今までとは少し違った

光景も見られました。

相談コーナーを通じて、卒業生と現役生徒との橋渡しとなり、若い世代の方々にも同窓会活動に関心を深めていただくきっかけになればと思います。



見学研修会 防災地下神殿（首都圏外郭放水路）

コロナ禍で中断していた中高同窓会幹事会の行事を2024年に再開することになり、2月3日、防災地下神殿と呼ばれる首都圏外郭放水路を日帰りで見学しました。

見学当日は晴天に恵まれました。現地で防災地下神殿の成り立ちについてレクチャーを受け、階段を降りて地下神殿に到着しました。昔は、大雨が降ると川があふれて地域の人たちを苦しめたそうです。今は大雨の時に雨水を一時的に溜めて氾濫を防ぎ、天気回復後に雨水を川に放流するそうですが、現場を見てその大きさに圧倒されました。この構造物を作るには高度な技術が必要だと思ひ、技術は人の暮らしの役に立つと実感しました。

私は電大工学部電気工学科卒業後、建設会社で工事現場を管理・監督する仕事をしていましたが、技術者になってよかったと思います。在校生の皆様には、ものづくりに興味があれば、電大を進学の実験室に入れていただけ

たらと思います。卒業生、在校生、保護者、教職員、学園関係者の皆様の今後のますますのご活躍を祈念いたします。結びに、この行事を支援していただいた校友会に深く感謝申し上げるとともに、今後も中高同窓会へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(副会長 竹内 勇夫)



見学研修会 造幣局さいたま支局を見学して

11月15日、造幣局さいたま支局に行きました。さいたま支局は、2016年に東京都豊島区から移転し、500円、100円、50円、10円、5円、1円の貨幣と、特殊な技術を用いて特別に仕上げた貨幣のプルーフ貨幣、勲章、褒章、金属工芸品の製造と貴金属製品の品位証明をしています。プルーフ貨幣とは、表面を鏡のように磨いた記念保有用の貨幣で、一般には流通していません。

工場見学ではガイドが付き、最初にVTRによる説明があり、続いて工場内の見学となりました。最初にプルーフ貨幣の製造現場を見学し、一般に流通されている貨幣との製造過程の違いがはっきり分かりました。続いて貨幣セットの製造、通常貨幣の製造、勲章の製造を見学しました。その後隣接する博物館に移動し、大判・小判などの古銭や、明治以降の日本の貨幣、記念貨幣、勲章、褒章、オリンピックの入賞メダルなどの貴重な展示

品を見学することができました。

今回の参加者は10名でしたが、参考になることがたくさんありますので、機会がありましたら皆さんもぜひお出かけになることをお勧めします。

(同窓会幹事 林 猛)



① 総務委員会

総務委員会は、昨年度同様に広報委員会・クラス会促進委員会および校友会と連携協力して各事業・行事等の企画・調整を行い、同窓会活動を推進いたしました。

実施項目

- 1) 第 65 回総会の開催 (準備・運営)
- 2) 幹事会の開催 (準備・運営)
- 3) 新会員への同窓会・校友会活動の説明 (高 3、3 学期終業式にて)
- 4) 中学校探求活動発表会への支援 (探求授業運営援助、奨励賞授与)
- 5) 学園祭 (武蔵野祭) への参加 (だんわ室開設、人気

投票の表彰)

- 6) 在学会員活動参観 (学園祭・体育祭)
- 7) 「二十歳を祝う会」の開催 (総会と同日開催)
- 8) クラブ活動後援会との連携 (武蔵野祭「だんわ室」開設)
- 9) 入学記念品 (校章バッチ) を新入生に贈呈
- 10) 卒業記念品 (卒業証書挟み) を卒業生に贈呈
- 11) 校内の同窓会掲示板の掲示 (入学式、卒業式に幹事からのメッセージを掲示)
- 12) 校外研修会の開催 (造幣局さいたま支局見学)
- 13) 「三十歳のつどい」の計画

② 広報委員会

実施項目

- 同窓会ホームページメンテナンス、中高同窓会 web サーバメンテナンス

- Facebook 中高同窓会ページで同窓会の情報を発信
- 同窓会誌『朋友』40号の発行 (記念号として増ページ)
- 東京電機大学校友会「校友会のしおり」発行の支援

③ クラス会促進委員会

クラス会促進委員会は「同窓会の充実とクラス会の開催の促進を図る」ことを第一と考え、下記項目を実施し、クラス会開催支援活動を行いました。

実施項目

- 1) クラス委員名簿の充実とメンテナンスの継続を図る。
- 2) 母校と連携し、クラス会開催を促進する。

- 3) クラス会開催クラスの名簿の収集等を行う。
- 4) さまざまな場面を通じて、同窓会の活性化とクラス会開催の促進 PR を行う。
- 5) クラス会およびクラブ OB・OG 会開催時 (対面形式・リモート形式) に、名簿等の提供、1 クラス 15,000 円の援助、学園の近況などの情報提供ができるよう校友会との連携強化を図りながら支援を行う。

①総務委員会

計画項目

- 1) 第 66 回総会の開催 (準備・運営)
- 2) 幹事会の開催 (計画・準備・運営)
- 3) 新会員への同窓会・校友会活動の説明 (高 3、3 学期終業式にて)
- 4) 中学校探求活動発表会への支援 (探求授業運営援助、奨励賞授与)
- 5) 学園祭 (武蔵野祭) への参加 (だんわ室開設、人気投票の表彰)

- 6) 在学会員活動参観 (学園・体育・合唱祭、文化講演会、芸術鑑賞会、他)
- 7) 「二十歳を祝う会」の開催支援 (総会と同日開催)
- 8) クラブ活動後援会との連携 (武蔵野祭「だんわ室」他)
- 9) 入学記念品 (校章バッジ) を新入生に贈呈
- 10) 卒業記念品 (卒業証書挟み) を卒業生に贈呈
- 11) 校外研修会の開催 (計画・準備・運営)
- 12) 「三十歳のつどい」の計画と開催準備

②広報委員会

計画項目

- 同窓会ホームページメンテナンス、中高同窓会 web サーバメンテナンス

- Facebook 中高同窓会ページで同窓会の情報を発信
- 同窓会誌『朋友』41 号の発行
- 東京電機大学校友会「校友会のしおり」発行の支援

③クラス会促進委員会

計画項目

対面形式以外にリモート形式の開催も推奨しています。リモートの方法は、クラス委員にお任せします。

※クラス会促進委員会は「同窓会の充実とクラス会の開催の促進を図る」ことを第一に考え、活動しております。

※卒業生の皆様には、中学校・高等学校時代の仲間とともに恩師の先生を囲んでクラス会を開催し、思い出話をして楽しく過ごしていただくために、クラス会開催のお手伝いをいたします。

※クラス会促進委員会は、広報委員会・校友会事務局とも連携し、会員からの情報を管理し、より多くの卒業生のクラス会開催を支援いたします。

事業計画項目

- 1) クラス委員名簿の充実とメンテナンスの継続を図る。
- 2) 母校と連携し、クラス会開催を促進する。
- 3) クラス会開催クラスの名簿の収集等を行う。
- 4) あらゆる場面を通じて、同窓会の活性化とクラス会開催の促進 PR を行う。
- 5) クラス会およびクラブ OB・OG 会開催時 (対面形式・リモート形式) に、名簿等の提供、1 クラス 15,000 円の援助、学園の近況などの情報提供をできるよう校友会との連携強化を図りながら支援を行う。

令和6年度クラス会・クラブOB・OG会申請一覧

令和6年度のクラス会およびクラブOB・OG会の申請は12件でした。

No	クラス会、クラブOB・OG会名称	開催予定日
1	硬式テニス部(男女)	令和6年4月20日
2	高校 平成13年卒 古城先生退職記念同窓会	令和6年4月27日
3	高校 ソフトテニス部OB会	令和6年5月5日
4	中学・高校「二十歳の祝」	令和6年5月25日
5	高校 令和5年卒 普通科1組2組	令和6年8月8日
6	高校 昭和42年卒 普通科4組	令和6年8月23日
7	高校 鉄道研究部OB会	令和6年9月21日
8	高校 歴史地理研究部	令和6年9月22日
9	高校 昭和41年卒 電子科1組	令和6年10月21日
10	高校 平成元年卒 電子科1組	令和6年11月3日
11	高校 昭和35年卒 電気科電力課程2組	令和6年11月27日
12	高校 昭和40年卒 普通科1組	令和6年11月30日

- (1) 令和6年11月21日時点の申請実績です。
- (2) 申請者の申請内容に基づき作成しています。

クラス会OB・OG会開催へ 補助金1万5千円!



同窓会では、クラス会、クラブ・同好会のOB・OG会開催に補助金15,000円をお出ししています。

クラス会を開きたいけれど、仲間の連絡先がわからない等、困ったことはありませんか？

そんな時には、校友会事務局へご連絡ください。

校友会では、補助金の支給のご案内やクラス名簿の提供等で皆さんのクラス会開催をサポートしています(名簿の利用には誓約書の提出が必要です)。

また、同窓会ホームページからオンラインでの申請も受け付けています。

一般社団法人 東京電機大学校友会
 〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番
 TEL 03-5284-5140 FAX 03-5284-5187
 E-mail kouyukai@jim.dendai.ac.jp
 校友会ホームページ <https://www.tduaa.or.jp/>
 中高同窓会ホームページ <http://www.tdu-chukodoso.com>



中高同窓会
オンライン申請ページ

※開催されたクラス会の報告については、中高同窓会ホームページの「クラス会、クラブOB・OG会活動報告」に掲載しています。

2024 (令和6) 年度 中学・高等学校 同窓会【予算書】

(期間:令和6年4月1日～令和7年3月31日)

《収入の部》

(単位:円)

科 目		予 算	前年度 決 算	
1	会 費	1,672,000	1,612,000	
内 訳	1) 高校 令和6年3月卒 249名	996,000	1,028,000	令和5年3月卒 257名
	2) 中学 令和6年3月卒 169名	676,000	584,000	令和5年3月卒 146名
2	活 動 費	1,700,000	1,400,000	
内 訳	1) 校友会活動費	1,400,000	1,400,000	
	2) イベント協賛援助金	300,000	0	
3	雑 収 入	1,050,000	10,054	
内 訳	1) 祝金, 貯金利子, 他	50,000	10,054	
	2) 「二十歳を祝う会」会費	0	0	
	3) 記念事業積立金 繰入	1,000,000	0	
A	小 計	4,422,000	3,022,054	
B	前期繰入金	652,238	697,177	
C	収入合計	5,074,238	3,719,231	

《支出の部》

(単位:円)

科 目		予 算	昨年度 決 算	
1	事 業 費	3,350,000	1,545,805	
内 訳	1) 総会費	100,000	73,869	
	2) 「二十歳を祝う会」開催費	900,000	0	
	3) 「三十歳を祝う会」準備費	100,000	0	
	4) クラス会クラブOB会開催補助金	900,000	570,000	
	5) 同窓会誌製作発行費	700,000	594,420	
	6) ネットワーク関係運営費	120,000	104,144	ホームページ管理 電子会議 他
	7) 校外研修会費	250,000	86,988	
	8) 学園祭「だんわ室」開設費	120,000	115,784	
	9) 委員会費	100,000	600	三委員会費合算
	10) 会計監査費	20,000	0	
	11) 運営委員会費	20,000	0	
	12) 会則検討委員会費	20,000	0	
	13) 周年記念事業費	0	0	
2	会 議 費	500,000	283,320	
内 訳	1) 通常幹事会	350,000	197,000	
	2) 武蔵野祭幹事会	150,000	86,320	
3	諸 費	220,000	56,000	
内 訳	1) 慶弔費	120,000	20,000	
	2) 交通費	50,000	36,000	
	3) 雑費	50,000	0	
4	事 務 通 信 費	200,000	146,668	
内 訳	1) 書類発送諸費	200,000	146,668	
5	特別会計	0	1,000,000	
内 訳	1) 記念事業積立金 繰出	0	1,000,000	
6	在 学 会 員 支 援	580,000	35,200	
内 訳	1) サポート募金	500,000	0	
	2) 探求授業援助	80,000	35,200	運営援助, 会長奨励賞
7	予 備 費	100,000	0	
A	小 計	4,950,000	3,066,993	
B	次期繰越金	124,238	652,238	
C	支出合計	5,074,238	3,719,231	

学校・年次別卒業生一覧（令和4年卒～令和6年卒）

卒業年次	高等学校											合計
	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	
R4	9	25	35	36	38	17	20	37	38			255
R5	7	23	28	18	9	35	35	10	21	36	35	257
R6	14	23	31	35	35	6	22	42	41			249
											合計 (累計)	761 (16,238)

卒業年次	中学校						合計
	A	B	C	D	E	F	
R4	28	29	30	30	29		146
R5	31	29	29	29	28		146
R6	35	33	33	33	35		169
						合計 (累計)	461 (3,364)

学校・卒業年次別担任・クラス委員一覧（令和4年卒～令和6年卒）

卒業年次		高等学校クラス										
		L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11
R4	担任	星野 智		矢口陽一	小俣巴芳	米山 裕	松下佳世		河野吉伸	深見雅子		
	クラス委員	伊藤万里子		浅古龍之介	塩澤悠希	市井亮多	本多達郎		重田莉奈	中村里菜		
		古谷陽佳		千保宏翔	吉田陸人	林 太陽	福原閣雄		西村知己	築瀬陽紀		
R5	担任	中田和樹		柴山恵実	池田 巧		山住直政	八百屋尚志	横田美月		白岳 学	疋田康之
	クラス委員	飯島大和		菅沼怜音	轉石健太郎		針木勇太郎	宋 河允	岩崎 友		石川翔大	阿部俊哉
		大屋優花		妙島由乃	小川紗英		柳原愛理香	若野蒼空	江原有香		松岡 遼	馬場陸人
R6	担任	松永航平		奥原もな美	下邨貴裕	吉澤 稔	矢口陽一		阿部苗美	加藤 学		
	クラス委員	池田彩奈		小野茉音	岩木心春	市村和花	早坂玲音		大島工季	土屋勇輝		
		小倉春士		小林大翼	上村亮太	山内盛太郎	山田希実		山下勝也	富岡大翔		

◆2025（令和7）年度 東京電機大学中学・高等学校同窓会総会のご案内◆

下記の要領で2025（令和7）年度の東京電機大学中学・高等学校同窓会総会を開催いたします。
会員の皆様のご出席をお願いいたします。

記

- ◎日 時：2025（令和7）年5月31日（土）15:00から（予定）
- ◎場 所：東京電機大学中学校・高等学校 東京小金井キャンパス 小ホール
- ※詳細は決定次第、同窓会ホームページ（<http://www.tdu-chukodoso.com>）に掲載いたします。

◆「二十歳の祝い」「30歳のつどい」について◆

中高同窓会では「二十歳の祝い」、「30歳のつどい」を開催いたします。
対象年次の皆様にご案内をお送りいたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- 「二十歳の祝い」 2025（令和7）年度 総会後に開催予定
- 「30歳のつどい」 2025（令和7）年 秋 開催予定



編・集・後・記

今回は『朋友』の記念すべき第40号ということで、例年よりページ数を増やして発行いたしました。

特集として創刊当時の思い出、飯田橋から小金井への移転当時の振り返りと、同窓会と母校の歴史をひもといってみました。今回の特集は、創刊当時と母校の小金井移転の頃を同時に振り返るには絶好の機会と考え企画してみました。石崎参与にご執筆いただいた創刊当時の思い出では、創刊時のご苦労や『朋友』というタイトルに込

められた先輩方の想いを伝えていただき、伝統の重みを感じました。

同窓会誌『朋友』はその伝統を引き継ぎ、今後も母校、同窓会と会員の皆様をつなぐ役割を果たしてまいります。引き続き会員の皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。記念すべき第40号発行にあたり、多くの皆様のご協力に深く御礼申し上げます。